

呉市医師会病院での 褥創(瘡)に対する色々な取り組み

呉市医学会 H19年11月18日

医療法人社団たつき会 菅田医院
菅田宗樹○

呉市医師会病院 褥創委員

実重みどり	津村真理
中野美香	河野和子
小川恵美	宮尾加代子
森田佐智子	山根美枝子
梶原一布美	土井田あや子



対象

平成19年1月以降
入院中で担当した褥創患者

※対象患者の大半は他施設からの持込

※外科病棟及び外科系医師の患者は担当外(症例数は少数)

目的

- 工夫した様々な治療材料を報告
- 様々な取り組んだ褥創症例を提示
- 呉市医師会病院での取り組みが褥創に対してどのような功罪があったか検証し、合わせて医療費削減効果について報告

処置の手順

創開放し洗浄(通常は1日1回)

外用剤選択(クリーム製剤は不可)

※ワセリンで十分かと現在経過観察中

被覆材の選択

固定テープの選択

※経過中創部への消毒・ガーゼは不使用

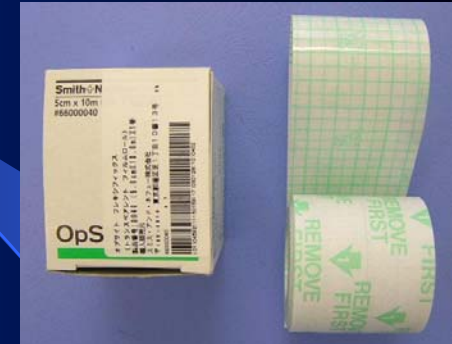
医療用被服材

創部の状態で適切な被覆材を
選択するには習熟が必要

ポリウレタンフィルム

(オプサイト フレキシフィックス 大10cm 小5cm)

- 大きさは自由になり使いやすい
- 水疱の保護、褥創の予防
- 他の被覆材固定時
- 使用が若干複雑
- かぶれる
- 吸収性はない
- 通気性がある



アルギン酸塩

(ソーブサン フラット プラス)

- コンプから抽出
- 創傷治癒過程促進
- 強力な止血作用
- フィルムドレッシングで固定
- フラスは圧迫効果
- フラスは形状保持



ハイドロファイバー

(アクアセル)

- 吸水性がある
- 曲面などの使用が容易
- フィルムドレッシングで固定
- ハイドロコロイドと併用すると効果大だが



ハイドロコロイド

(デュオアクティブ CGF ET、ビジダーム)

- 吸水性が若干ある
- カサフタを融解
- 皮膚色に近く目立たない
- 防水性がある(特にET)
- 自由な大きさに使える
- かぶれにくい
- においがある

ビジダーム



CGF



ET

ポリウレタンフォーム

(ハイドロサイト5×5 AD5×5、10×10)

- 吸水力が強い
- 厚みと弾力があり、クッション効果がある
- ADはテープ類で固定不要
- 湿潤治療初心者の必需品
- 膿瘍などのドレナージ効果も期待



ハイドロジェル

(グラニューゲル、イントラサイト)

- 組織欠損部に使用し、死腔を充填し治癒促進
- 黒色期の褥創に使用すると自己融解が早まる
- 透明な軟膏の様に見える創傷被覆材
- 親水性ポリマー分子が水分を含む
- フィルムドレッシング等で密封して利用
- 乾燥気味の開放創に効果



プラスモイスト



・医療材料で安価(約 $1.5 \text{ 円}/\text{cm}^2$)

※医療用被服材(約 $10 \text{ 円}/\text{cm}^2$)

・吸収性が比較的高い

・テープ固定を要す

・柔軟性が少ない

・保険請求不可(ガーゼ扱い)

非医療用被服材

ラップ療法

(半開放性湿潤治療)

どのような症例でも簡便で失敗が少なく
誰でも出来、効果が良い

医療用フィルム穴あき / 尿といパッド



作成が手間で創部とずれが生じ改良

医療用フィルム剣山穴あき / 乳パット



作成が手間で改良

紙オムツin穴あきポリエチレン袋



作成が手間であるがオムツがないところには
現在も使用中で大きさが自由に作れる

穴あきポリエチレン袋+オムツ



作成が簡便、オムツがあるところはこれ一枚
四肢などには尿取りパットをあてて吸収

ストッキング



褥創症例

超高齡・感染症例

症例 100歳 肺炎・心不全・ASO Hb6.5 Alb1.8

7.30黄色壊死・感染



8.23
黄色壊死自己融解
感染治癒



6.7

深達度不明

症例8 2歳 肺炎・認知症



6.28



7.5



7.12



7.26

糸状菌感染



夏場注意(軟膏治療薬選択)

ずれ・ポケット・糸状菌感染

8.23

症例8 2歳 肺炎・認知症

10.11



10.25

11.15



治癒が遅いと糸状菌疑い

腱露出・段差・過剰肉芽症例

症例92歳 心不全・糖尿病・ASO Hb9.3 Alb2.0



10.4プロスタンدين軟膏



10.25ステロイド外用・テープ固定



10.18段差・過剰肉芽



11.8治癒

ずれ予防

4.18



5.4



ずれは段差やポケットの原因に！

著効例 66歳 廃用症候群



10.27



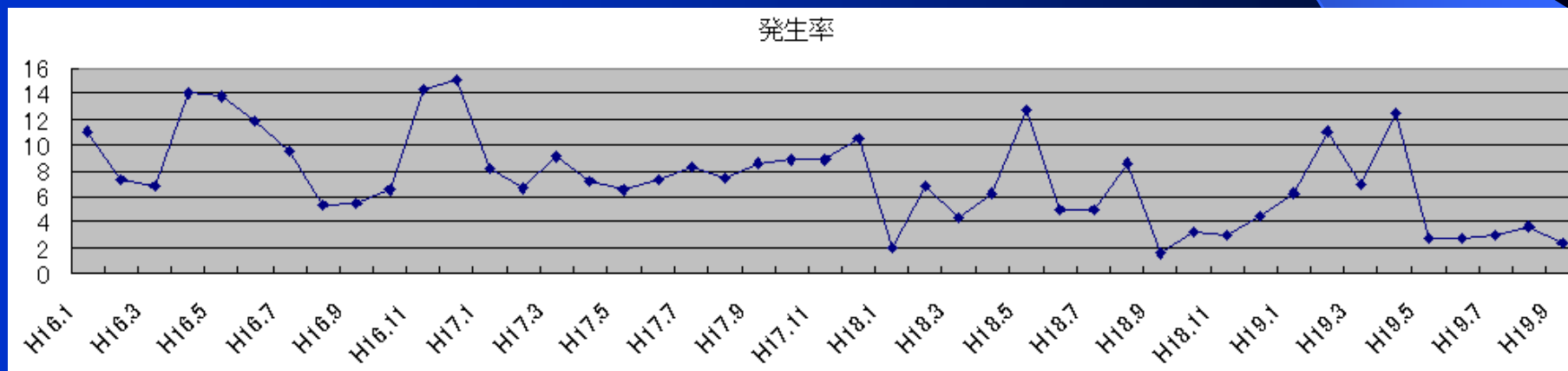
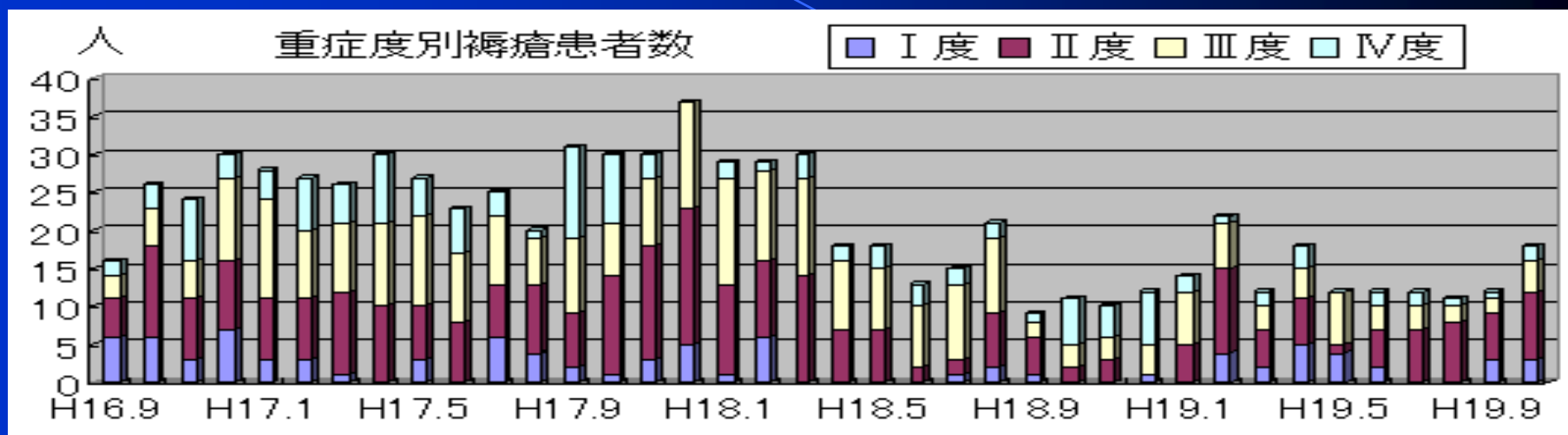
11.1



11.8

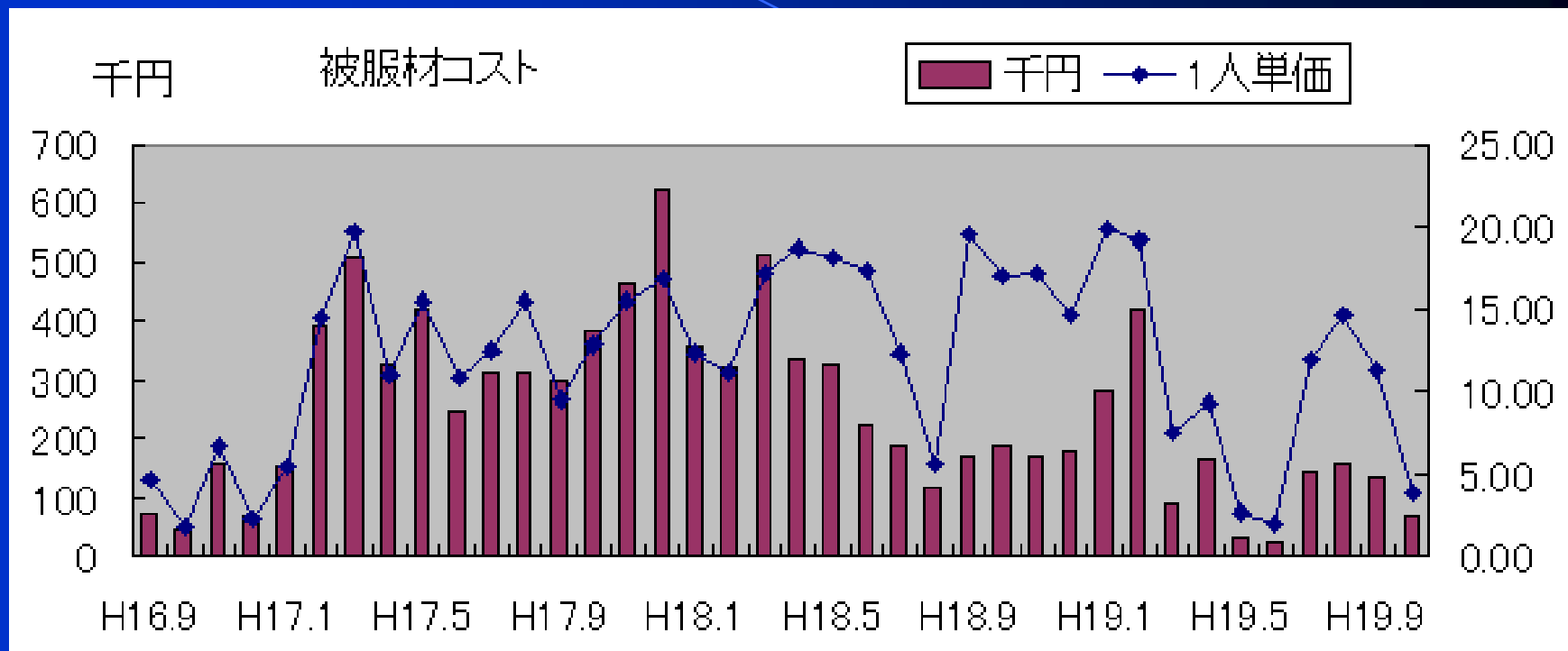
2週間で治癒

患者数推移



- 重傷度別割合、褥創患者数の軽症減少化(褥創対策の充実)
- 当院発生率が今年になり顕著に改善している(発生率 2 ~ 3 %)

コスト



- H17頃から被覆材を使用し始めコストが急激に増加している
- 患者数の減少と共に総額は減少も単価は高いまま推移
- ラップ療法を積極的に取り入れたH19.3より単価減少
- ハイドロジェル試用によりH19.7～9単価増加（10月減少）

考察

- ・ 壊死組織が感染を助長する
- ・ ずれが段差やポケットと関与
- ・ ずれ段差予防テープは部位を選ぶ
- ・ 治癒遅延時は糸状菌感染を疑う
- ・ 過剰肉芽にはステロイド**軟膏**が効果的

罪

- 糸状菌感染に注意必要
- 日常品使用による不信感

功

ラップ療法は

- ・ 多少の工夫で簡便に実施
- ・ 誰でも安全に実施
- ・ 顕著にコスト削減
- ・ 効果が良い

まとめ

- ラップ療法はコスト、簡便性、効果に優れ、今後さらに広まる治療法である。
- 近年褥創対策は向上し、医師を含めたチーム医療が発生や悪化の最大の予防となり、医師会病院で成果を上げた。